# 「読むこと」「書くこと」領域における授業実践例

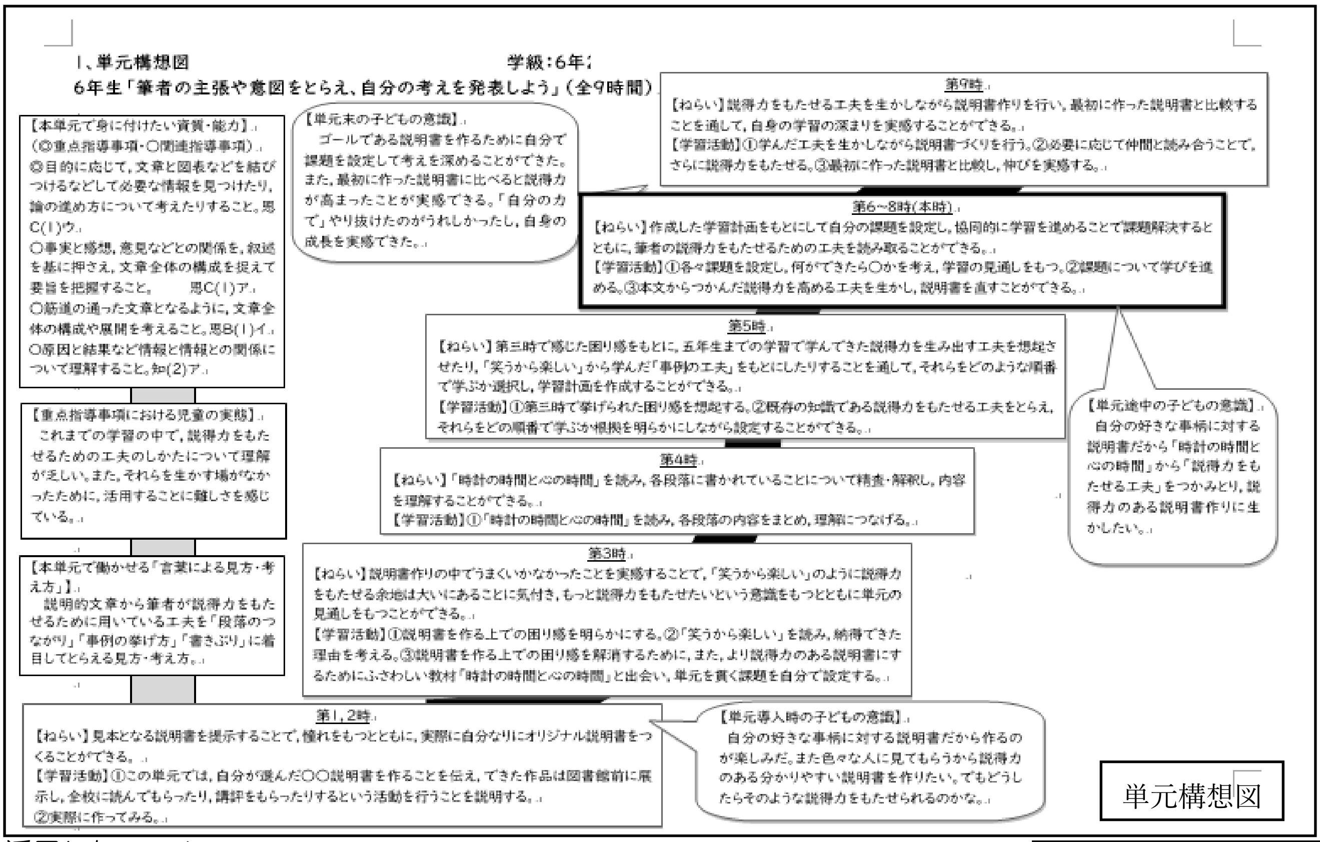
① 学年・単元名　　第６学年「筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう」

② 身に付けたい資質・能力（◎重点指導事項・〇関連指導事項）

◎目的に応じて，文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり，論の進め方について考えたりすること。思C(1)ウ
〇事実と感想，意見などとの関係を，叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。　思C(1)ア
〇筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。思B(1)イ
〇原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。知(2)ア

③ 実践内容及び指導の工夫

教材「時計の時間と心の時間」を用いて，ICT を活用しつつ，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に行うことで，「主体的で対話的で深い学び」の実現を目指した。そのため，単元構想を以下のように練ることで，それぞれの目指すゴール(児童がやってみたい，できるようになりたいと感じるゴール)を明確にし，その達成に向けて何をどんな順番で学んでいくのかを児童それぞれが考え，計画して行うことで複線的に追究を進められるようにした。その際，教師の下支えとして，課題解決に必要な資料を複数準備し，児童はそれらをもとにして，それぞれに学びを進めた。学習計画＋学び方のふり返りを１枚のシートとして活用したことで，自分が何をどの順番で学んでいくのかを自分で判断して計画したり，その時間の学び方はどうであったかをふり返って次時に生かしたりすることで学びの連続性を生み出すことができた。また，その時間に自分以外の仲間は何を学んでいるのかが分かるように，黒板にネームプレートを位置付けて同じ課題をもとに学習している仲間を把握できるようにした。それによって，児童が協働的な学びをしやすい環境を作ることができた。



１、単元構想図　　学級：6年

6年生「筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう」（全9時間）

【本単元で身に付けたい資質・能力】
（◎重点指導事項・〇関連指導事項）
◎目的に応じて，文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり，論の進め方について考えたりすること。思C(1)ウ
〇事実と感想，意見などとの関係を，叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。　思C(1)ア
〇筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。思B(1)イ
〇原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。知(2)ア

【重点指導事項における児童の実態】
これまでの学習の中で，説得力をもたせるための工夫のしかたについて理解が乏しい。また，それらを生かす場がなかったために，活用することに難しさを感じている。

【本単元で働かせる「言葉による見方・考え方」】
説明的文章から筆者が説得力をもたせるために用いている工夫を「段落のつながり」「事例の挙げ方」「書きぶり」に着目してとらえる見方・考え方。

【単元末の子どもの意識】
ゴールである説明書を作るために自分で課題を設定して考えを深めることができた。また，最初に作った説明書に比べると説得力が高まったことが実感できる。「自分の力で」やり抜けたのがうれしかったし，自身の成長を実感できた。

第9時
【ねらい】説得力をもたせる工夫を生かしながら説明書作りを行い，最初に作った説明書と比較することを通して，自身の学習の深まりを実感することができる。
【学習活動】①学んだ工夫を生かしながら説明書づくりを行う。②必要に応じて仲間と読み合うことで，さらに説得力をもたせる。③最初に作った説明書と比較し，伸びを実感する。

第6～8時(本時)
【ねらい】作成した学習計画をもとにして自分の課題を設定し，協同的に学習を進めることで課題解決するとともに，筆者の説得力をもたせるための工夫を読み取ることができる。
【学習活動】①各々課題を設定し，何ができたら〇かを考え，学習の見通しをもつ。②課題について学びを進める。③本文からつかんだ説得力を高める工夫を生かし，説明書を直すことができる。

第5時
【ねらい】第三時で感じた困り感をもとに，五年生までの学習で学んできた説得力を生み出す工夫を想起させたり，「笑うから楽しい」から学んだ「事例の工夫」をもとにしたりすることを通して，それらをどのような順番で学ぶか選択し，学習計画を作成することができる。
【学習活動】①第三時で挙げられた困り感を想起する。②既存の知識である説得力をもたせる工夫をとらえ，それらをどの順番で学ぶか根拠を明らかにしながら設定することができる。

【単元途中の子どもの意識】
自分の好きな事柄に対する説明書だから「時計の時間と心の時間」から「説得力をもたせる工夫」をつかみとり，説得力のある説明書作りに生かしたい。

第4時
【ねらい】「時計の時間と心の時間」を読み，各段落に書かれていることについて精査・解釈し，内容を理解することができる。
【学習活動】①「時計の時間と心の時間」を読み，各段落の内容をまとめ，理解につなげる。

第3時
【ねらい】説明書作りの中でうまくいかなかったことを実感することで，「笑うから楽しい」のように説得力をもたせる余地は大いにあることに気付き，もっと説得力をもたせたいという意識をもつとともに単元の見通しをもつことができる。
【学習活動】①説明書を作る上での困り感を明らかにする。②「笑うから楽しい」を読み，納得できた理由を考える。③説明書を作る上での困り感を解消するために，また，より説得力のある説明書にするためにふさわしい教材「時計の時間と心の時間」と出会い，単元を貫く課題を自分で設定する。

第1，2時
【ねらい】見本となる説明書を提示することで，憧れをもつとともに，実際に自分なりにオリジナル説明書をつくることができる。
【学習活動】①この単元では，自分が選んだ〇〇説明書を作ることを伝え，できた作品は図書館前に展示し，全校に読んでもらったり，講評をもらったりするという活動を行うことを説明する。②実際に作ってみる。

【単元導入時の子どもの意識】
自分の好きな事柄に対する説明書だから作るのが楽しみだ。また色々な人に見てもらうから説得力のある分かりやすい説明書を作りたい。でもどうしたらそのような説得力をもたせられるのかな。

単元構想図

④ 活用したツール

「Pages」を活用し，単元の最初にモデルを提示し，「自分のお気に入り説明書」を作成した。児童は自分の好きなものの説明書なので意欲的に行った。しかし，文章を作る上で，もっとわかりやすく相手に伝えるにはどうしたら良いか，もっと自分の言いたいことに説得力をもたせられないか，などと「より良く仕上げるために」という壁にぶつかる。その壁を解決するための説得力があって分かりやすい説明的文章(時計の時間と心の時間)を紹介し，必然性を感じながら教材に出会うようにする。

かわいいむちむち説明書

6月中旬に生まれて、7月24日に家にきたオス　うさぎのみたらし。
家にきたときはたった300gしか無かったのに今は1600ｇもあって首回りや、お腹がむっちむちのみたらし。今日はそんなむっちむちうさぎ魅力を説明したいと思います。

これは、正面から見たむちむちです。
ほっぺたや、首まわりがふんわりしているのがわかります。
また、うさぎの　平均体温は、約40度です。
ふわふわの毛と、むちむちお肉、
それにあたたかさと、つぶらな瞳
長～いお耳に、可愛いお鼻…
たくさんの魅力があるうさぎ様の抱き心地は、ふわふわでむちむちであったかくて可愛いくて…　もう最高です。

時にはこんなかわいらしい姿を見せてくれるみたらし
そして20秒後にかんむりを食べはじめ，1分後には　後形も無くなるかんむり。

エサが欲しくてぶさいくな顔になってケージをかじるみたらし。

いたずらでダンボールをかじるみたらし。

みなさんも少し考えてみてください。
あたたかくてかわいいむちむちが毎日、毎日こっちに走ってくるんですよ。最高じゃないですか！
かわいいむちむちの魅力は伝わりましたか？これで終わります。

Pages で作った説明書

⑤ 成果と課題（実践するときの留意点など）

〇やらされる学習から抜け出し，目的をもって学びを進める姿，個人で考え抜く姿，仲間と協働的に学びを進める姿などが見られ，国語学習に意欲的に取り組む児童が増えた。
〇学んだことをすぐに自分の説明書に生かすことができるため，自分の作った文章の変化が分かり，学びが生きて働いたことを実感できた。
〇最初に作った文章を複製し，最初のまま直さない文章と，どんどん直していく文章と分けておくことで，自分の文章がどのように変わったのか，実感しやすい。
▲個別で学びを進めていくことが難しい児童への指導の仕方を考えていきたい。